

# 人は誰でも必ず間違いをする 生きもの

私たちは、仕事で失敗をします。落ち込んだり後悔したり。それでも何とか支援したい。お役に立ちたいと思います。そう思うから

1

同僚、仲間に相談したり、会議や、事例検討したり研修参加や関係書類、本を読んだり。

- 相談、会議、検討、研修、本など様々な振り返り、問い返しをして前に進もうと努力します。
- 振り返り、問い返しの1つにこんなのもあるのがわかりました。それは成功体験にもあてはめられます。
- それは？

2

## 社会福祉士会倫理規定・行動規範

- 企業でいうと、今は普通に言われる、自分たちの仕事のスキルを上げていく

### 「アップデート」

ですがそれをどこからするかの一つ。

- 他の領域で共通してると思われることは例えば、

3

## 小説家 五木寛之「背信の思想」 「人間は記憶と過去の集積体」

- 仕事の失敗を乗り越えたり、成功体験に自身の裏付けを持ちたいことは、  
「アップデート」や「人間は記憶と過去の集積体」になりますが、  
自分にとって、この場合のアップデートとは

4

平成17年(2005年)東京で3日間地域包括  
支援センターの研修で強調されたこと

## 気づき

→気づきを言語化、文章化することの重要性でした。それが

5

倫理規定改定を受けての気づきは？

- 気づきをもたらすもの、言語化するのは何を土台とするのか
- その土台となるものが倫理綱領



自分にとっての「アップデート」

6

倫理綱領のどこにアップデートを感じるか

それまでの綱領にはなかった内容や追加内容。

7

## 原理

### I (人間の尊厳)から。

- 社会福祉士は、すべての人々を出自、人種、民族、国籍、性自認、性的指向、年齢、身体的精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済的状況などの違いにかかわらず、かけがえのない存在として尊重する。

8

10～20年前にはなかった動き  
→人間の尊厳とはを深め前進させている。

- 性自認、性的指向が追加。違いがあってもかけがえのない存在として尊重するとあります。
- →日本ではLGBTは、13人に1人。弁護士会では数年前からかけがえのない存在としてLGBTの人権を守る取り組みをしている。
- 国でもLGBT理解増進法案の提出が議論されている。

9

新しい価値に出会った時  
認識の変化もあれば戸惑いや葛藤もあります。

- 倫理綱領の内容でも同じことが言えます。大切なこと。
- →認識の変化の内容を自分の言葉で言語化
- →葛藤の場面を大切に向き合いながら積み重ねていく。

10

## 原理 Ⅲ(社会正義)から。

- 社会福祉士は、差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊などの無い、自由、平等、共生に基づく社会正義の実現をめざす。

11

## 社会正義に無関心が追加

- 身の回りの社会で起きていることに関心を持たないのは、社会正義に反すること。
- 無関心→「自分とは関係ない」という態度や傍観者のようにふるまうことが社会正義に反する。
- 支援で感じたこと→様々な貧困の状況におかれた対象者の中には、「助けてほしい」気持ちまでも無関心になってしまう。支援者はその無関心にちゃんとアンテナを張り支援する。

12

## 社会正義のもう1つの視点1

- ある弁護士より。

「ソーシャルワークの考えに社会正義があることを知りました。これは、弁護士法第1条にある社会正義と同じですね」

弁護士と社会福祉士は共通の原理、目的で動いており共同する必然性があります。

13

## 社会正義のもう1つの視点2 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義

- ソーシャルワークは、**社会変革と社会開発、社会的結束**、および、.....
- **社会**という言葉が3つ連続して使われてます。つまりソーシャルワーカーは、**社会にかかわる専門職である**と強調されているということ。

14

# ソーシャルアクション

- 自分の戸惑いや葛藤の積み重ねを経て、自分の到達点からのソーシャルアクション。